

## 研究者としての10年

大阪経済大学 教授 梅村 仁

大阪経済大学の梅村と申します。市役所を退職してから、県立高知短期大学、文教大学、そして大阪経済大学と移籍し、すでに3校目となりました。右も左もわからないまま、第二の故郷である高知県（出身大学所在地）に再度、住むことになり、これからの新たな人生をどのように進んで行こうかと考えていた時に、かつての上司から言われた私の良いところとして「好奇心・探究心がとても強い」と褒められたことを思い出し、進むべきスタイルとしてそれを貫こうと決めました。以来、右往左往しながら、これまでなんとか研究・教育の場に身を置かせていただき、今日に至っています。

私の研究は、市役所時代にある企業経営者からの一つの相談から始まりました。「隣の工場が閉鎖し、住宅用地として転売されることになった。そうなったら、ここで操業することが難しくなる。どうしたら、良いだろうか?」という内容でした。こうした問題は、一般的には「住工混在問題」といわれ、尼崎市や東大阪市などの中小企業都市に多く発生しています。景気衰退や経済のグローバル化などを要因として、工場が点出する場合に、その跡地活用策として住宅が建設され、従前から立地している工場と新たに建設された住宅との共存に向けた調整が必要となってきます。こうした場合、多くは既存工場の操業環境が悪化し、最悪のケースとして、操業不能になる場合があります。法治国家である我が国において、トラブルになった際は、当然どちらの言い分も正しいとなる。では、地域経営および都市政策の視点から、どうすべきなのかが現在の私の強い関心事であり、2019年2月発行の拙著『自治体産業政策の新展開』ミネルヴァ書房において十分ではありませんが記しています。もし、ご興味があれば書店にて手に取っていただけたら幸いです。

次に、高知にて教鞭を取るようになり、県内をインタビューする中で学生時代に見えなかったことが見えてきました。「地方都市の活性化」への取り組みの大変高い緊急性です。故に、高知を題材に、地場産業である紙産業、産業集積の近接性、高知県の地域政策などに関する論文を精力的に執筆するとともに、大学、自治体および企業の方々と産学官連携組織の立ち上げなど、面白くかつ貴重な経験もさせていただきました。現在も高知大学客員教員として顔の見える密な連携を保ちながら、地域活性化に関わっていることは大変ありがたいことです。

また、初任校である高知短大(2011~2013年)は、社会人のための学びの場として設立されたことから、年齢層の幅の広い学生との出会いは、大変刺激的でした。特に、専攻科(短大課程終了後の生涯学習コース)における社会人学生(50代~70代、6名)の演習を担当したことが印象深い。私も社会人大学院からスタートしたので、社会人としての経験が「次なる学び」の面白さ、楽しさを引き上げてくれている実感もあり、彼ら

と輪読、地域フィールドワークなどは真剣勝負の場でした。それほど、熱い議論・質疑応答がなされていました。結果的に、彼らは全員地元の高知大学大学院・高知県立大学大学院に進学し、修士課程において学長賞を受賞される方を輩出できたことは私にとっても誇りです。

文教大学以降は、(2014年～現在)は、地域連携、活発なゼミ活動に注力しています。神奈川県寒川町との連携では、町長との対談・地方創生事業の受託・まちづくりイベントへの参加、鎌倉市まちづくりプランコンテストでは鎌倉市長賞を受賞するなど仲間づくりを軸にして、ゼミ全体で取り組む経験をしました。また、故郷大阪に戻ってからは、地の利を活かした地域連携活動に勤しんでいます。八尾市の助成事業(子どもの場づくり)への採択、福井県おおい町の政策コンテスト参画、URとの包括提携に基づくイベント企画、大阪市のものづくりフェアへのボランティアなど動き回っている感があります。

次に、大学教員としての本分である研究ですが、関心領域として産業集積、住工混在、自治体政策、中小企業、地方創生、地域再生などを対象として研究を進めてきましたが、その関心領域は今もどんどん広がっています。その要因は、関わる地域とヒトとの交流の拡大に比例しており、大変ありがたいことです。また、毎年海外での学会発表にもチャレンジし、大きな刺激を受けています。特に、喫緊の関心事は米国・ポートランド市のまちづくりです。まだ研究をスタートしたばかりですが、その交流は広まりつつあり、新たな知見を求めて頑張っていきたいと考えています。

最後に、これまで多くの学生と関わってきましたが、毎年数名の自治体職員を輩出できたことはとても嬉しいです。自治体職員として過ごした経験をどれだけ彼らに伝えることができたかは定かではありませんが、自治体に限らず広くまちづくりに貢献できる人材を育てていきたいと願っています。

写真 ポートランド州立大学内を走る路面電車(LRT)

